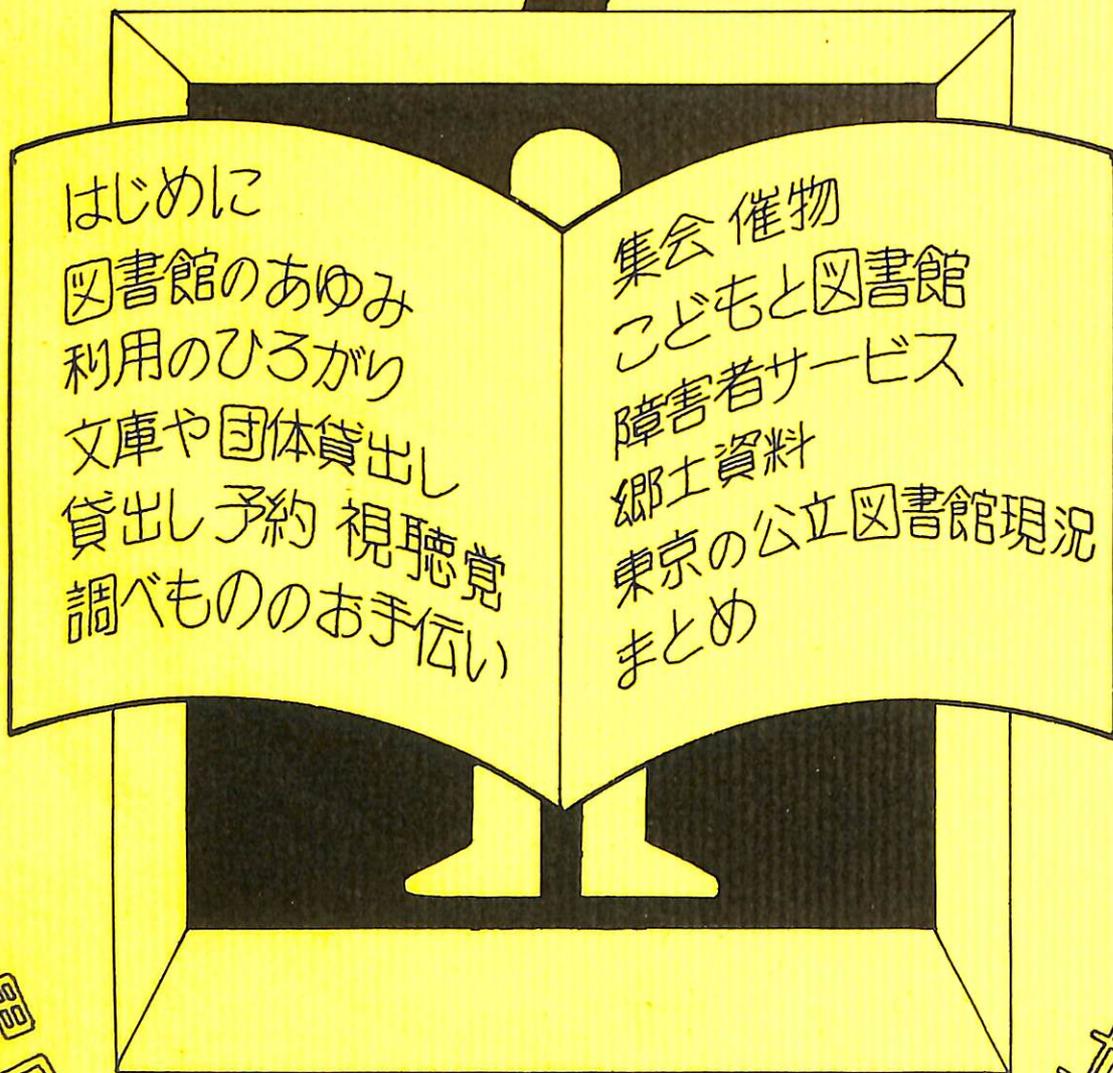


開かれた図書館をめざして

墨田区 の 図書館



はじめに  
図書館のあゆみ  
利用のひろがり  
文庫や団体貸出し  
貸出し予約 視聴覚  
調べもののお手伝い

集会 催物  
こどもと図書館  
障害者サービス  
郷土資料  
東京の公立図書館現況  
まとめ

墨田区立図書館

あかほり  
島 緑



# はじめに

『三千六百六十一冊』！

これは、今年（昭和五十三年）の一月のある土曜日、一日だけの墨田区立図書館三館で借りられた資料の数です。

墨田区に図書館が三館となって十五年、この間、資料を館内で利用するということから、館外へ借りて利用するというように変わり、十五年前にくらべて、借りていく人も五倍となり、貸出冊数も十倍にふえました。

こうしたなかで、図書館は、学生や一部の好きの人のためのものということから、こどもからおとしよりまでの幅広いものとなってきており、全区民のものへと変わりつつあると自負しています。

また、区民のみなさんの手による文庫活動も活発化してきました。

## みんなにほんを BOOKS FOR ALL



(国際図書館シンボルマーク)

このような伸びや変わりかたは当区だけでなく、東京をはじめ全国各地に共通しています。

しかし、東京の多摩地区や欧米各国に比べれば、まだまだたちおくれていきます。障害者の皆さんへのサービスも端緒にいたばかりです。

この小冊子は、図書館の過去をふりかえり、現在から未来への図書館を模索する手がかりとして、区民のみなさんのための図書館をめざす願いをこめて作成しました。

ご批判、ご意見をおきかせください。されば幸いです。

## 都会のオアシス

文花二丁目 山下史人

数年前、青山から墨田の団地に転居して来た当初は、山の手と下町の格差の激しさに失望し呆然とした。然し極く近所に此処「あずま図書館」の存在を知り乾天に慈雨を得た歓びを抱き以後今日迄通い続け万巻の書に親しんでいる。夫れにしても学生時代、最初に図書館と出会った往時に較べ何と言つ便利さの進化であろう。

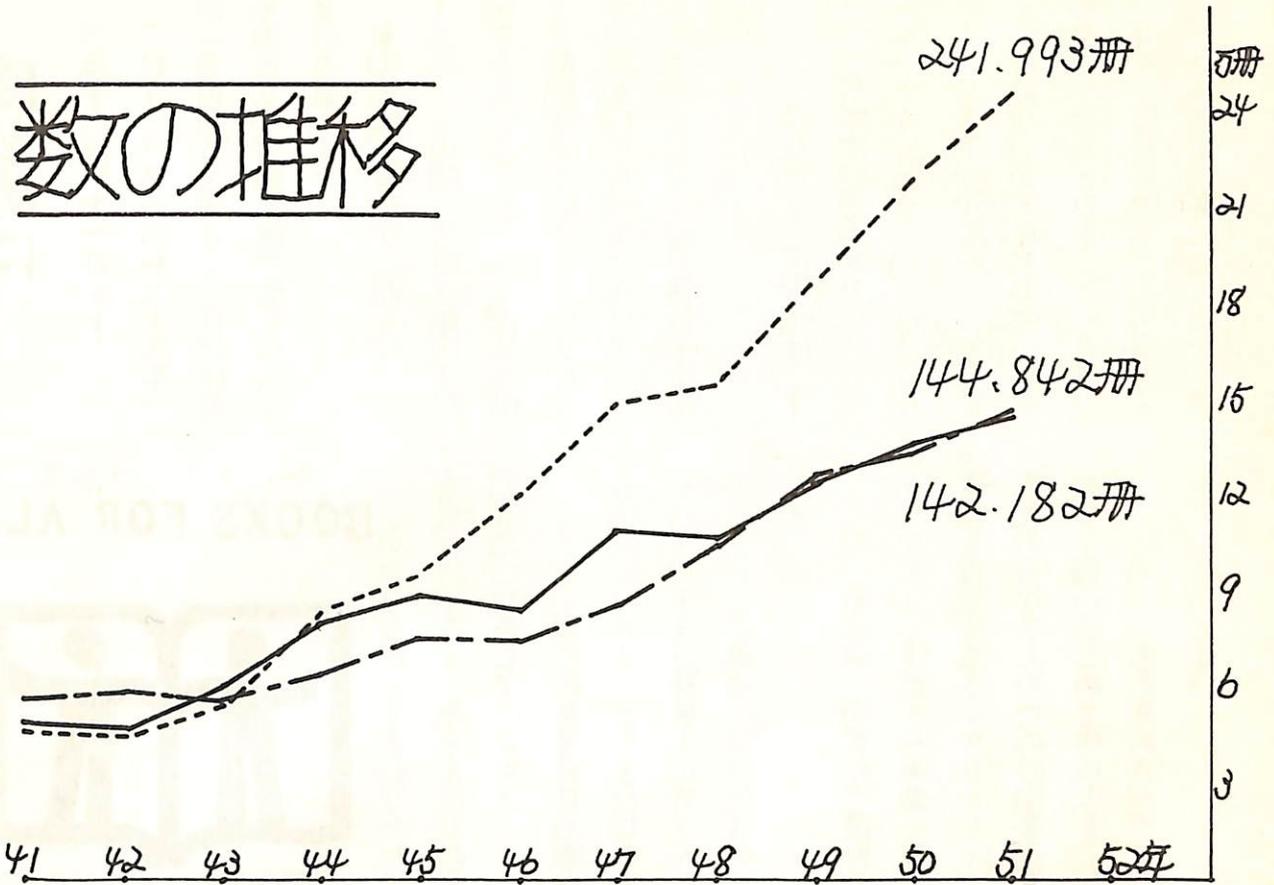
その便利さは驚歎に値する。書庫出入自由、五冊迄三週間の貸出し、その上リクエスト制度の便利さに加えてレコード、カセットまで親しめる上にコピーサービスもある有難さ、砂漠に泉を発見した様に、常に知識に渴いている私の知囊をどんなに豊かに潤してくれた事か！

当時、数の上でも東京に五指にも満たず、書庫は立入禁止、唯カードから本の内容も判らず書名だけで手探りの様を選び出して書き記し受付に渡し一時間も待たされた拳句、限度七冊の内二、三冊が渡されるのが殆んど見当違いの内容で全く役立たなかつた例も再三であった。勿論館外貸出しもない。夫れが時代の変遷とは言え現在

難点を挙げればコピー設備が在るのに本の頁を切裂く不届者、徳育の無い子供達の館内を馳巡る騒々しさは他に例を見ない処である。夫れにしても往時の役人的な態度とは全く異なり、数少ない係員方の利用者優先の御努力と、私達の我儘を寛容して下さいる御親切には心から感謝の誠をお伝えしたい。

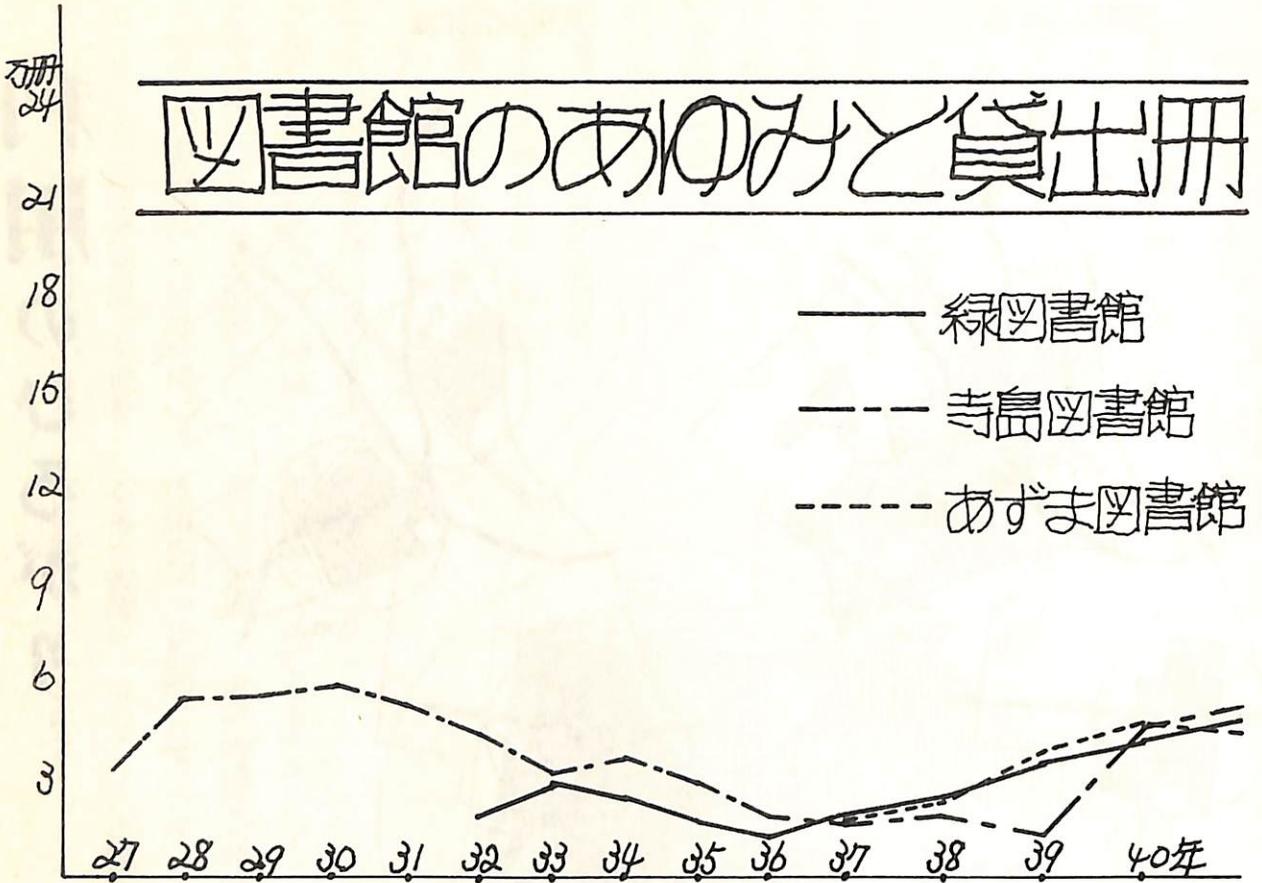
(抜粋)

# 数の推移



- 出入口を車椅子用スロープに改修(あ)
- 常時夜間7時まで開館(5月)。青森市立図書館(共催・緑)
- 集中カバン・ターレット(こども型)コンパニオン(保嬰配置)(緑)
- 視覚障壁書架カセットテープ貸出
- 図書費一括扱(55年)消費加費)
- レポートの館外貸出開始
- CD-ROM開始(一枚10円)
- 規則改正(貸出冊数)入5冊3週間)
- 墨田区立図書館共同書庫(資料保存)施設
- 入館券廃止。新聞プール格発行(あ)
- 集中カバン・ターレットとし館内利用を自由化(あ)
- 墨田区立図書館相互貸借開始
- 整備委託(無入アーム)
- ブックホスト設置(緑)。お話し(の時間開始(あ)
- 東京都「東京都の図書館振興政策」
- 夜間配車。新刊雑誌の貸出開始。図書館「東京の公共図書館」(白書)
- 「100の貸出カバン」の差替(おぼろげな)「100の」(白書)
- 図書館利用の守り小学校配布(あ)
- 予約貸出開始。今号設備整備。
- 職場の朝の話し(お話し)(あ)
- 館内利用無記入(あ)
- 成人式に図書館案内冊配布。現代作家展展覧館(寺)

# 図書館のあゆみと貸出冊



液体不自由児に給託(4月まで・緑)。都立協力集書行。日野市立図書館施設  
 当島図書館改築(5月)。珠集物を調べる会(後・自然を尋ねる会・4月まで)  
 寺島図書館改築のための仮設館(6月)

規則改正(貸出冊数一人2冊10日間・保証人への八かき返金禁止)  
 日本図書館協会「中小都市における公共図書館の運営」

東京都公立図書館長協議会「東京都公立図書館の現状と問題点」  
 墨田区立図書館連絡協議会発足(三館協議会)

あずま図書館用館(9月)。

レコードの館内利用開始(緑)。図書館友の会「こずの会」発足(9月まで・緑)

日親読書会と座談会開催(寺)

墨田区立図書館総合目録発行。レコードコンサート開始(緑)

墨田区立図書館報創刊

緑図書館用館(12月)

緑分館施設(緑小学校内)

巡回文庫開始(初めは文庫と提携)。夏期夜間用館実施(7・8月)

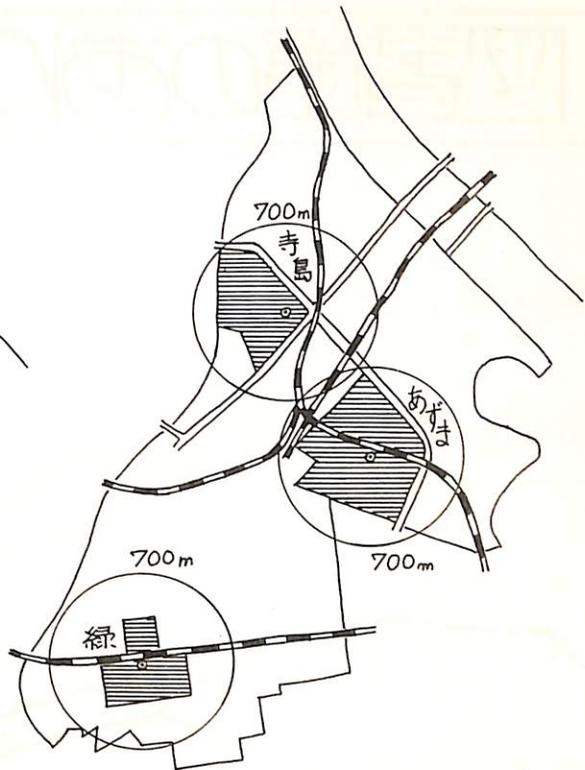
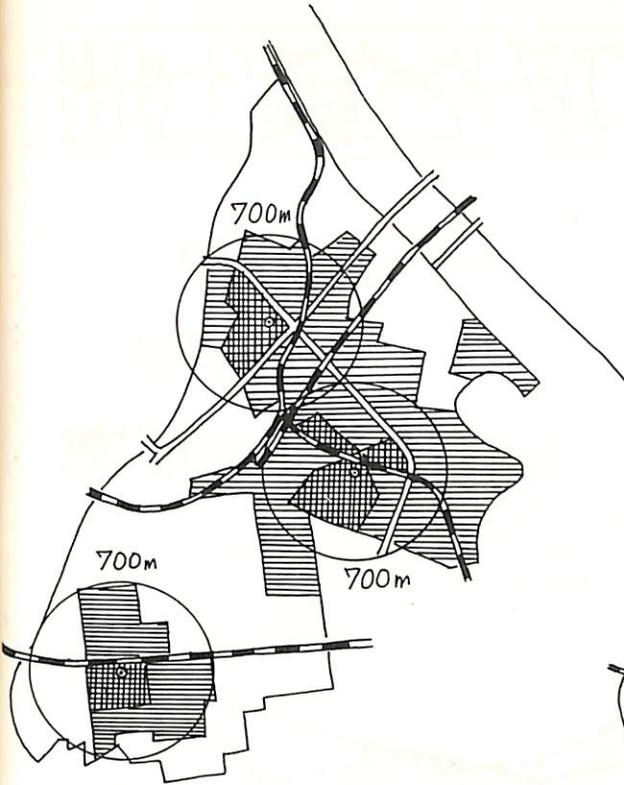
寺島図書館用館(都立に移管)。江東フロッグ図書館研究会発足(2館協議会)

図書館法公布(26・4・1)

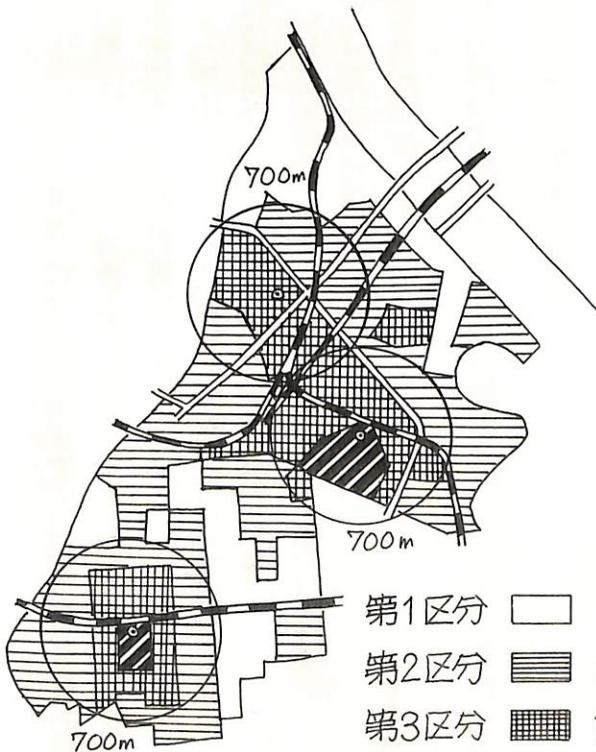
昭和46年度

昭和42年度

# 利用のひろがり



昭和51年度



- |      |   |          |
|------|---|----------|
| 第1区分 |  | 5%未満     |
| 第2区分 |  | 5~9.9%   |
| 第3区分 |  | 10~19.9% |
| 第4区分 |  | 20~39.9% |
| 第5区分 |  | 40%以上    |

一この図は豊田区立図書館貸出登録者全般の最近十年の動きを示したものです。

昭和四十二年では、図書館周辺五百米圏で5~10%の登録率でしたが、昭和五十一年度になると20%以上の登録地域ができています。これは地域の人々がより多くの情報を求めるようになってきたことや、それに伴う図書館の増額、そして図書館が積極的に貸出しを

伸ばす運営を進めてきた結果の現われでしょう。

一般的に図書館の利用しやすい距離は七百米以内といわれますが、この図でも七百米を越えるあたりから登録者の空白地が目につきます。この空白部分を埋めて、これから「多くの人に利用される図書館」をめざしていきたいと思えます。

# こどもの利用

現在、図書館を利用している半

数はこども（0才〜12才）です。

登録分布図をみると分るように、

殆んど区内全域のこどもが登録し

ています。特に図書館周辺

五百米圏の

こどもたち

は40%以上、

図書館に一番

近い小学校では

児童十人のうち九人までが、

幼児も十人のうち三・四人が

図書館から本を借りています。

こどもたちは本が大好きです。

出入り自由な図書館には沢山の本

があり、身近な友だちや、地域・

年令の離れた友だちと出逢えたり

します。図書館を一つの社交場に

もしているこどもたちは、交通事

情を心配する家族の言葉もふりき

つて、

かなり遠くから

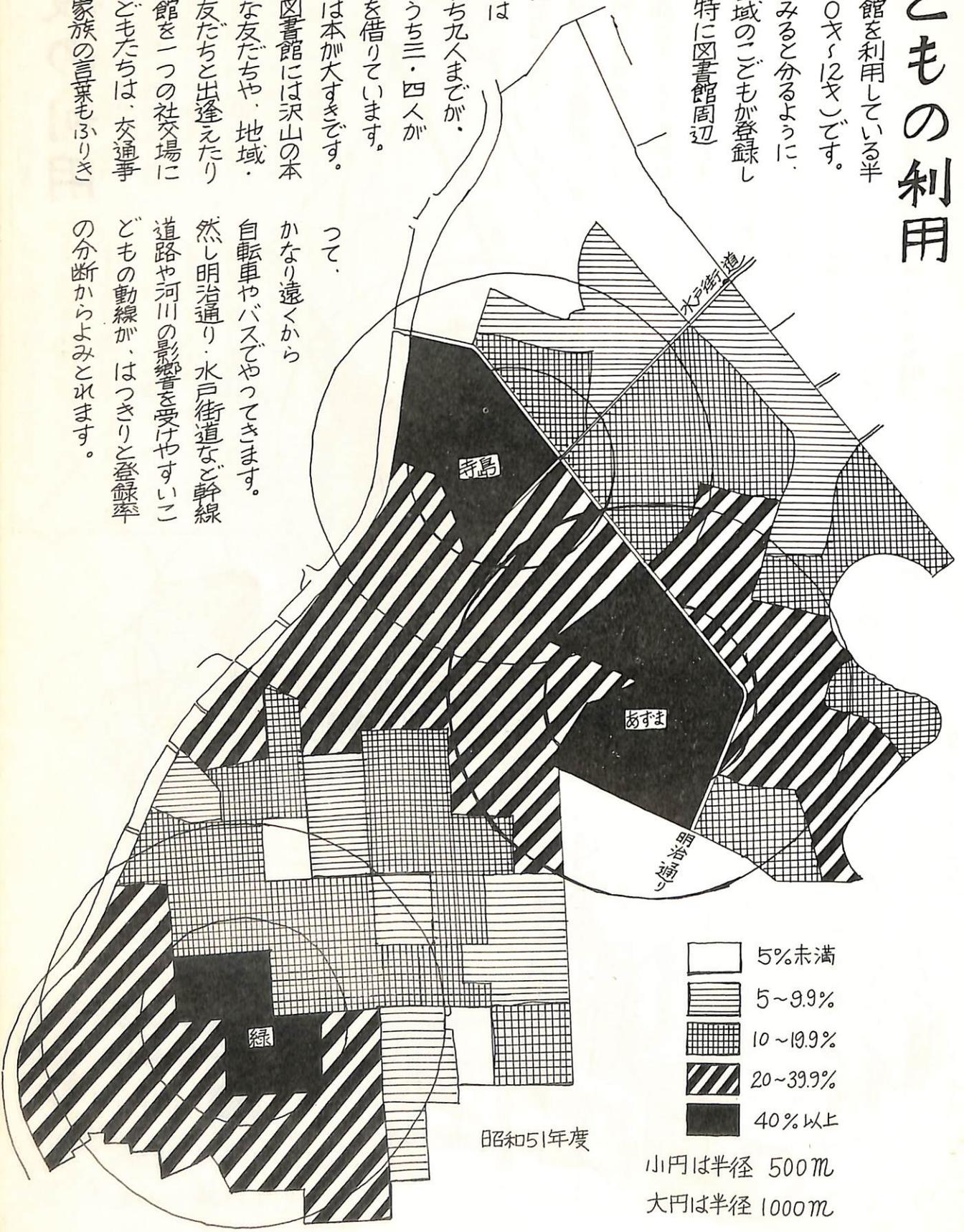
自転車やバスでやってきます。

然し明治通り・水戸街道など幹線

道路や河川の影響を受けやすいこ

どもの動線が、はつきりと登録率

の分断からよみとれます。



- 5%未満
- 5~9.9%
- 10~19.9%
- 20~39.9%
- 40%以上

昭和51年度

小円は半径 500m  
大円は半径 1000m

# 一般の利用

これは十三才以上の貸出利用者の登録分布図です。三館とも半径七百メートルを越えると空白地がでてきますが、本所地区の大きな拡がり、区境付近、また墨田区北部についてはこのもの図でも

ほぼ同形な

ここが

分ります。

こうした空白地

の人々にとつては、

距離的にも心情的にも図書館

は遠い所なのかも知れません。

一方寺島図書館とあずま図書館は

同じ登録率で連続した拡がりを見

せますが、このもの図のような幹

線道路による分断はみられません

。これは大人の方が行動範囲がひ

ろいというだけでなく、地蔵坂商

店街・緑日・スーパードなど日常的

な生活動線の相互交流があるため

だともみられます。この頃ではこ

どもの活発な口コミなどで、お母

さんやお年寄りの利用もふえてい

ますが、仕事や暮らしの時間にし

ばられている一般の人々にとつて

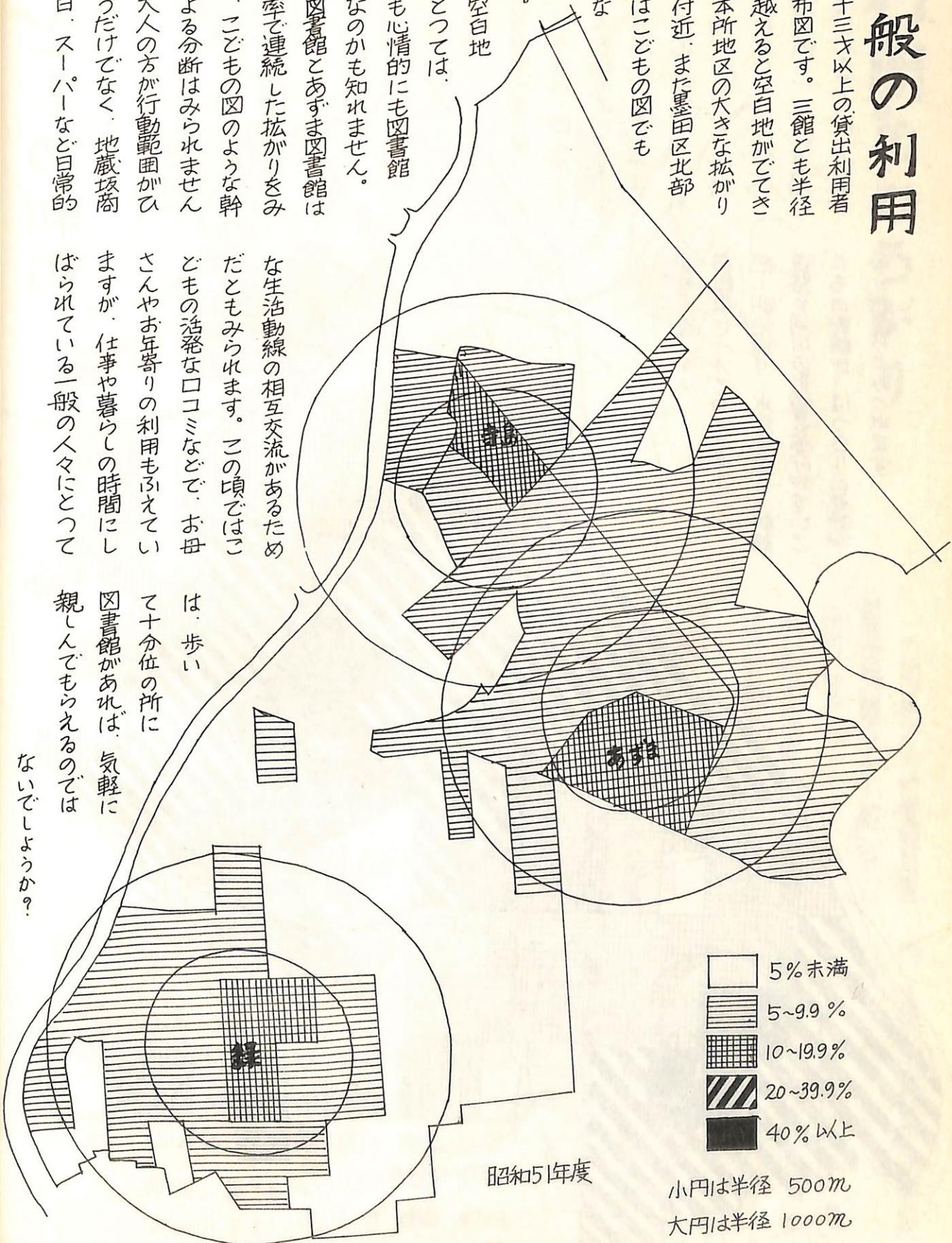
は、歩い

て十分位の所に

図書館があれば、気軽に

親しんでもらえるのでは

ないでしょうか？



-  5%未満
-  5~9.9%
-  10~19.9%
-  20~39.9%
-  40%以上

小円は半径 500m  
大円は半径 1000m

昭和51年度

# ひろがる文庫や団体貸出し

図書館の利用が伸びるなかで、文庫や団体の貸出しもひろがっています。昭和四十九年の規則改正で、従来の団体貸出し三十冊一か月より、団体は百冊まで、文庫には三百冊三か月まで貸出すことになり、図書館から貸出しを受けている団体は四十、文庫は三十、貸出冊数はこの三年間で四倍の約一万三千冊と急速に伸びています。文庫は図書館から遠い地域で、いわば図書館のかたがわりとして

できて一方、近くにおいても、保育園、学校等増えています。↓

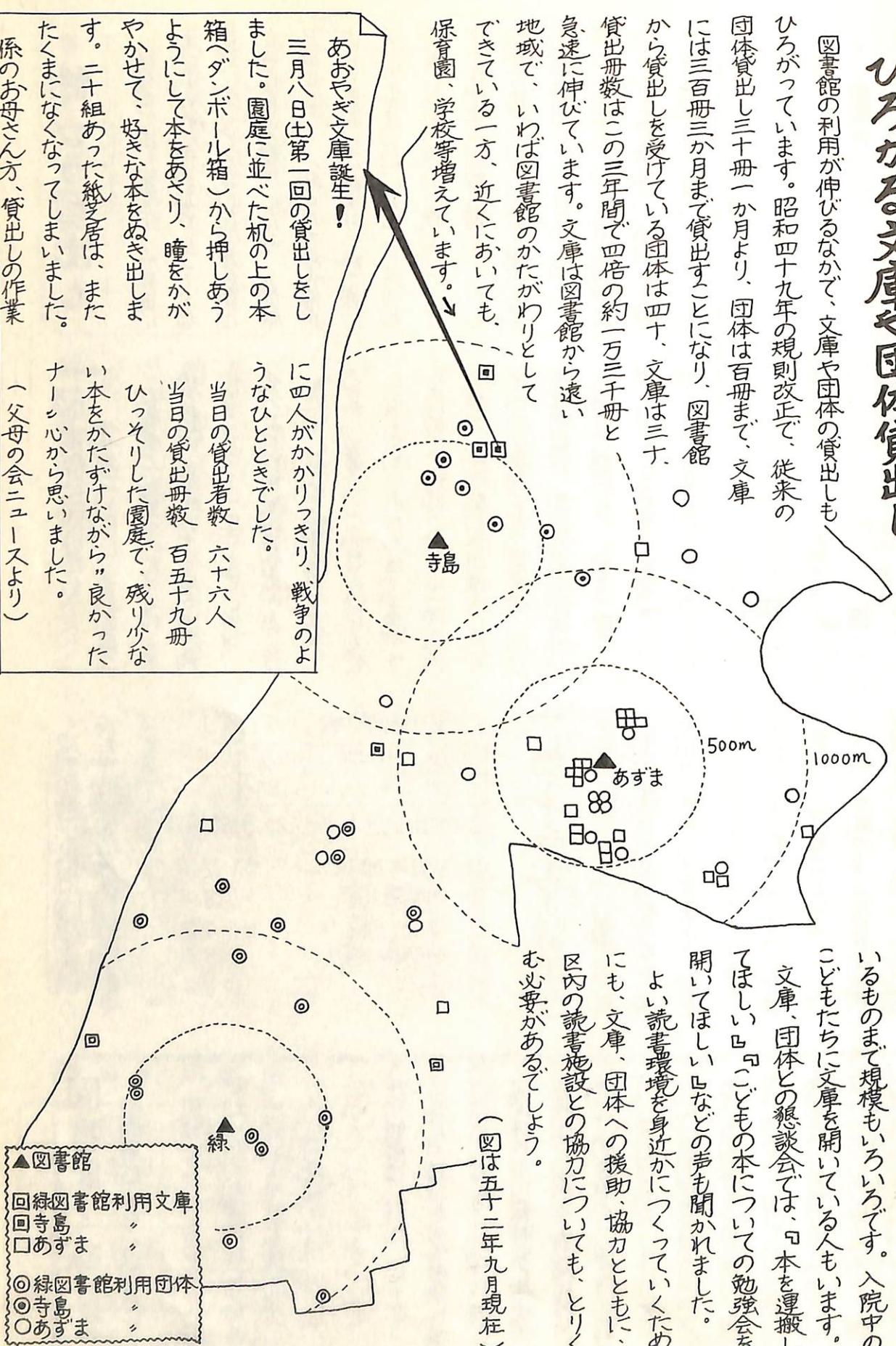
あおやぎ文庫誕生！

三月八日(土)第一回の貸出しをしました。園庭に並べた机の上の本箱(ダンボール箱)から押しあうようにして本をあさり、瞳をかがやかせて、好きな本をぬき出します。二十組あった紙芝居は、またたくまになくなってしまいました。

係のお母さん方、貸出しの作業

に四人がかかりつきり、戦争のよ  
うなひとときでした。

当日の貸出者数 六十六人  
当日の貸出冊数 百五十九冊  
ひっそりした園庭で、残り少ない本をかたづけながら「良かったナニシ心から思いました。(父母の会ニュースより)



↓自治会でやっているものから一人でやっているものまで規模もいろいろです。入院中の子どもたちに文庫を開いている人もいます。文庫、団体との懇談会では、「本を運搬してほしい」「子どもの本についての勉強会を開いてほしい」などの声も聞かれました。よい読書環境を身近かにつくっていくためにも、文庫、団体への援助、協力とともに、区内の読書施設との協力についても、とりくむ必要があるでしょう。

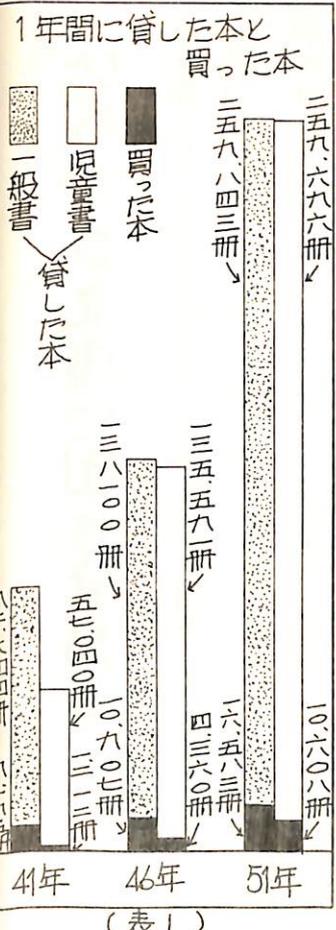
(図は五十二年九月現在)

# 伸びる貸出し

図書館では、昭和五十一年度に五二九、〇一七冊の本やレコードが区民に借りられました。本を自由に手に取れる様になりました。入館票を廃止したり、利用の手続を簡単にして気軽に本が借りられる様に変えて来ました。貸出しの方法も読書の秘密が守れる様になっています。年間購入冊数も増え、いつも新鮮な魅力に富んだ本を提供出来る様に努力しています。しかし、貸出しも増え、多くの出版物を扱っていく上で機械化の検討も必要になって来ています。

## 図書館に読みたい本がない時に(予約制度)

図書館では読みたい本がすぐ読める様に、昭和四十三年から予約(リクエスト)に応じています。それまでは希望図書制度がありましたが、読みたい本を必ず提供するという事にはなっておりませんでした。求められた本を必ず提供するために、返却された本は次の希望者に、未所蔵の本は購入したり区内の図書館や都立図書館、国立国会図書館、都内の各図書館等から借りて提供しています。表2の様にはほとんど要望に応じていますが、必ず提供したり、利用者に速く確実に届けるには、図書館間の協力や出版流通機構の問題を解決する事が必要です。



〔予約の処理件数〕 (表2)

49年度	50年度	51年度
5203	5216	6434

〔予約された本はこんな方法で〕

- ① 返却を待って 51.7%
- ② 新規購入 17.8%
- ③ すでに注文中 24.4%
- ④ 他館から借りて 5.8%
- ⑤ 不能 0.3%

## レコード・テープの貸出し

レコード・テープの利用は、長い間行事や館内利用だけでしたが昭和五十年から中学生以上に貸出しを始めました。五十一年度の貸出しは、九一四四点です。年間購入数は、三〇〇点と少なく、レコード等は消耗が激しいため所蔵数が増えず、区民の要求に十分応えるというには不十分です。

## 図書館と私 (抜粋)

東向島六丁目 山腰直也

何といつこともなく、一昨年から私の図書館通いが始まった。二十年以上御無沙汰していた『読書』だけに、なかなかどっつきにくかったが、壮年健康法、将棋、オーディオなどの趣味ものを多用しつつ慣らしていった。この頃では世界や中央公論など雑誌十数種類と単行本十数種を毎月読む。図書館からは三日とあがず電話が来る。リクエストしていた本が入るからだ。いろいろ知識をつめこめば、自然に洞察力もつくし、人の相談相手にもなれる。「知る」喜びそのものはもちろん何物にも代えがたい。図書館は私に、若さ」を戻してくれた。

# 調べもののお手伝い



- ・結婚披露宴の挨拶についている本
- ・雑誌「翼」はこの図書館に
- ・電マ公社等政府出資の企業体の
- ・名鑑はあるか
- ・危険物の取扱についての本は
- ・淀川長治の著作物を知りたい
- ・おねしよのなち方について
- ・家と土地のローンの使い方
- ・公官関係の資料のリストを
- ・マリモのいるところ
- ・乱視についての本
- ・バトンガールの歴史について
- ・シミ抜きのかたについて
- ・徳川諸侯の家紋を調べたい
- ・マンセル国際標色表はあるか
- ・足尾銅毒事件について
- ・イタイ・イタイ病について
- ・玉の井の地名の由来について
- ・墨田の七不思議について

図書館では、利用者から質問や相談を受けた時、その人の求めていた資料をいろいろな角度から探したり仕事を相談奉仕といっています。貸出しがふえると同時に、相談件数も多くなっていますが、まだ多くの人には余り知られていないようです。

相談の内容は初歩的なものから専門的なものまでいろいろありますが、職員は汗かくて質問にとりくみます。自分だけで解決のつかない時は他の職員に協力してもらったり、他館へ問合せをしたりして質問に答えています。このように職員は質問相談にぶつかると自分の力不足を痛感します。そこで「その本はありません」「よく分りません」と言わせてしまうこと

のないように、全体の質のレベルをあげて相談奉仕に充分応えられるように職場研修をしたり、相談を受けとめて行く職場の体制をつくらうと努力しています。

どんな質問にも応えようとする図書館の姿勢こそ、利用者との信頼関係を生みだして行くものになるでしょう。

利用者の質問に鍛えられ、鍛えられた職員が巾広い知識と技術とを充分に生かして、疑問の解決にあたる。こうして図書館利用のなかみを充実させて行きたいものです。



## 複写サービス

墨田区の図書館が複写サービスを始めたのは、昭和四十九年八月からです。利用者にはかなり好評のようであるが、毎年利用件数もふえています。一寸した調べもののために、重い本を借りなくても済み、関連のある沢山の情報を短い時間で手に入れることができます。現行の著作権法の規制する範囲内のサービスですが、サークル活動にも利用したいとの声も出ています。

複写利用枚数

	49年度	50年度	51年度
緑	3,969	7,381	9,287
寺島	5,451	9,999	13,813
あずま	3,557	7,998	9,045
計	12,977	25,378	32,145

(複写は一枚10円です)

# 井戸端会議を図書館で

図書館は資料の提供と共に「集会室（グループ室）」を設け「話し合いの場」も提供しています。

現在、最も多様にグループ室を利用してゐるのは子どもたちです。宿題や協同研究、クラス会でやる人形劇の練習や紙芝居づくり、野球の試合のための作戦会議、ハイキングの計画など、本をたくさん抱え込み、話し合いや相談の場としてグループ室を大いに活用しています。

各館での定期的な催し

・緑図書館

・工作会—毎月一回

・寺島図書館

・おはなしとかみしばい—毎週水曜

・あずま図書館

・3時のおはなし—毎日

・あそびのじかん—毎週水曜

寺島図書館の集会室を利用して

いる。日向読書会はもう10年近く読書会を続け、本と人、人と人とのつながりを豊かにしています。またあずま図書館では、子どもたちと図書館員が「いっしょにヨシん

## 母親の手で人形劇を—文化の拠点として—

図書館は地域の文化活動の拠点としての役割も持っています。子どもたちが本や、図書館に親しむ様におはなし、人形劇、工作会などを開いたり、現在活躍中の詩人を呼んで講演会を開いたりしています。

以前は、図書館の行事という図書館側が企画・実施するという事が多かったのですが、最近、たとえばあずま図書館では、母親や保母が自分達で手袋指人形をつく

子守唄や昔話が日常の生活のなかから消えようとしている一方でテレビなどの刺激的、一方的な機械の作り出す音の洪水の中に置かれてゐる現代の子どもたちに肉声

ぶんプールグ」をつくっています。

り、図書館員と一緒に人形劇をやつて子どもたちに見せたり、文庫活動をしている母親や教師と図書館員との話し合いで出された要望に基づいて文化講演会を開いたりという様に、地域の人たちの要望によって催しを開いたり、地域の人たちの手によって催しものを実施することが増えてきました。また緑図書館では、近くに住むおとしよりを囲んで昔のはなしを聞く集いをもったりしています。

でおはなしを語りかけ、言葉やおはなしの持っている楽しさを理解してもらふ事は、子どもと本の結びつき、子どもの感性を豊かにする上で重要です。

地域の人たちの要望や地域の人たち相互の働きかけによる集会や催しの場となつてはじめて、図書館は「地域のなかでの文化の拠点」になるのだといえます。

最近、公害、日照権、廃棄物処理の問題、教育の問題など、地域ぐるみで考え、取り組んでいかなければならない問題が増えてきています。様々な問題を考えていくうえで必要な情報があり、話し合う場があり、要望に応じて講座や講演会を企画する場として、図書館の役割は今後ますます大きくなっていくでしょう。

# 自由に本と出会える場に

## 「子どもと読書」

ちかごろの子どもは テレビや

マンガばかり見ていて本を読まなくなつたという声をよく耳にしますが、図書館に来る子どもたちを見ていると決してそんなことはありません。事実5ページの登録分布図を見ると、図書館の周辺の子どもたちの利用は非常に多く、近くの小学校では、全校生徒の90%近くが、図書館から本を借りていきます。このことから、身近に本があれば子どもは、よく本を読むことがわかります。

図書館でも十年前頃は子どもの利用は三分の一程度でしたが、現在では貸出冊数の半数を子どもが占めています。(8ページ参照)  
図書館では、赤ちゃんの絵本が

ら趣味の本まで、一人一人の子どもの多様な要求に応えられる様に

いろいろな本を揃えています。

子どもたちは、年令や学校の成績に関わりなく、あれを讀みなさい、これを讀みなさい等と言われずに、誰でも自由に本を選べる楽しい場になって、はじめて本に親しむことができるのではないでしょう。か。

また、どんな本を読んだらよいか、わからない子どもには、図書館員が本を読んであげたり、適当な本を紹介したり、ちょっとしてお手伝いをしてあげると、だんだん自分自身で、良い本を見つけてくることが出来るようになります。

## 「人と人とのふれあいを」

子ども室では、大きな子が小さい子に紙芝居をやってあげたり、将棋をやっている子どもたちに老人が牛ほどきしたりという様な光景をよく見かけます。図書館は、子どもと本だけでなく、子ども同士、子どもと大人とが結び付く広場にもなっています。

ところが最近子どもたちからよくこんな声を聞きます。「塾が忙しくなるから、あまり本が読めない」「みんな、そろばんや習字に行っていて遊ぶ友達がいなから図書館に来た」等、自由な時間や大きい子と小さい子が共に集い遊びや生活の知恵を伝えていくというところが失われ様としています。この様ななかで様々な子どもが集まる広場としての図書館の役割は、ますます重要になってきています。

## 「地域の協力を」

現在子どもの教育や読書に関する関心が高まり、墨田区でも多くの文庫が生まれています。(7ページ参照) 俗悪な本が出まわっている現状に対して、年近に良い本を置き子どもの読書に役立て、集団の中での子どもの成長を願う、文庫活動が生れているのです。

この様に、未来を担う子どものより豊かな読書や文化環境を、良くしていくには、家庭・学校・児童館・保育園などと図書館が協力していくことが大切です。そしてそのことが地域を住みよく、豊かにしていくことにつながるのだと思います。



# 障害者サービス

「視覚障害者の訪問から、始めました」



からだに障害を持つ方たちにも、健常者と同じサービスを、という考えで始めた障害者サービスも、一年を迎えました。まず、視覚障害者を訪問し、市販のカセットテープの貸出しを中心に、行ってきました。

## 利用状況

(S5112~S523)		28人
登録者	貸出	434点

(S524~S5212)		31人
登録者	貸出	942点
テープ	貸出	71冊

この活動を行っていく中で、次のような要望に出会いました。

「市販のテープは、作品のダイジエストなので、全文のわかる、伊勢物語、ねずみ小僧次郎吉を聞きたい、等の要望があり、やっとテ

ープ化して、応えたということもありません。

点字を読む人は、少ないようですが、点字本の要望は、強くあります。しかし、図書館には、点字図書がなく、厚生会館や、他の点字図書館の目録を集め、それを点字化し、利用者の要望があれば、借りて貸出すという、中間的役目をする事で対応しています。

また、一人暮らしの方の処へテープを届けた時、「墨字の葉書きを、読んでほしい」、「声のたよりを郵便局に届けてほしい」と頼まれる事もあります。

「その他、「料理の作り方、はじめの赤ちゃんに関するテープが聞きたい」、「借りているうちに楽しみなった」、「孫に読んで

あげられないので、毎回、お話のテープを借りる」、等の声もあります。

また、大型活字本のコーナーや拡大鏡もそろえ、さらに、53年度には、拡大読書機も備えつける予定であり、弱視の方へのサービスの拡大もすすめています。

最近、利用するようになった車イス利用者の要望により、入口のスロープ化、等をすすめており、車イスで利用できる図書館へのとりくみと、その方たちへの呼びかけも考えています。

また、脳性小児マヒにわかり、車イスを利用して、35才のN子

(N子さんのお母さんより頂いた手紙の一部)

さんから、「算教(たし算、ひき算)を教えてほしい」と要望があり、あずま図書館で、職員が応えています。

病院のいづれも文庫に、図書館が積極的に援助する、等もしています。

墨田区の図書館では、障害者サービスの一步を踏み出した所で、障害も多様で要望も多様であり、奥の深さを強く感じています。

これからも試行錯誤を重ねながらも、地域の人たちの協力も得て対面朗読をはじめとして、ひとつひとつの要望に真剣にとりくみたいと考えています。

私は、公務の一時を子供の為にさして下さり、誠に申しわけないと思いつつも、図書館で勉強出来る、又、宿題を持ってゆくのだから自分から励んでいる娘の様子に、本当に年令に「だから、諦めては、いけな」のたよと、目がつると思つくと、生きるという事の幸せを、今、次々感謝しております。

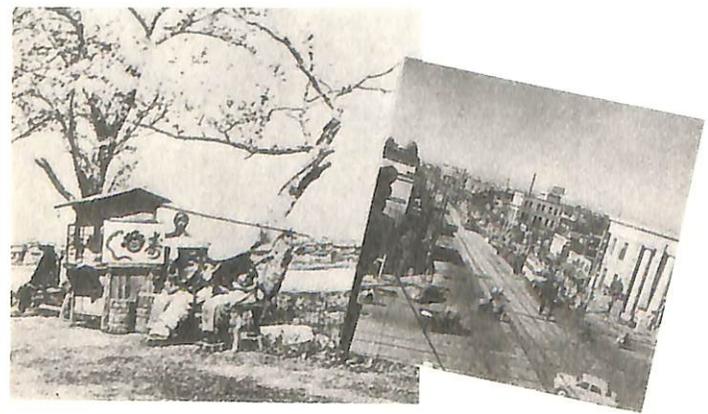
# 「地域資料」(郷土資料)「サーブス」

「この頃は、区館に増して、豊田  
 区の地域の「サーブス」の相談  
 問が盛んにあります。しかし、  
 区に江戸時代から残っている道  
 材、昔の道材。「サーブス」  
 田区には、木工業・鉄杖業・  
 おたけの製造業・江戸の工場の  
 多さが、それだけではない。「  
 区にありたい木・大木といっ  
 知っていますか、」区に江戸問  
 題の争いになるグループがある  
 知っていますか、」区に活動の  
 区に江戸時代から残っている道  
 材、昔の道材。「サーブス」  
 田区には、木工業・鉄杖業・  
 おたけの製造業・江戸の工場の  
 多さが、それだけではない。「  
 区にありたい木・大木といっ  
 知っていますか、」区に江戸問  
 題の争いになるグループがある  
 知っていますか、」区に活動の

歴々たる、大切な心の現われが  
 大層なサーブスに来ようとする  
 豊田の地域に「サーブス」は、都  
 立図書館に「サーブス」を、国立東  
 洋館に「サーブス」を、調べる  
 区に「サーブス」の「サーブス」  
 WGETの図書館に「サーブス」を、調  
 べる「サーブス」が「サーブス」を  
 れらの資料の収集と提供は、地域  
 図書館の事業に「サーブス」が  
 あります。現在の区も都が  
 行ったり、諸機関・学校・団体・  
 粗口・住民等が「サーブス」を  
 政資料類を「サーブス」の  
 重要な「サーブス」。「サーブス」  
 の「サーブス」・決議書・区議会議  
 ・各部の発行の「サーブス」は、この  
 資格を「サーブス」の「サーブス」  
 である「サーブス」  
 したが、この「サーブス」の要求の

多岐分野は、区内の歴史・地誌・  
 名所史跡案内と、区民の昔の生活  
 状況などのを知りたり、この「  
 ような事柄が「サーブス」で、この「  
 要求に対する資料の収集は、「サーブス」  
 した新聞の「サーブス」の「サーブス」  
 の「サーブス」や、新聞の「サーブス」  
 古本の「サーブス」や、「サーブス」  
 「サーブス」を集める「サーブス」  
 ための「サーブス」、カメラ「サーブス」  
 作「サーブス」資料が、重要な役割を  
 果たしているのです。「サーブス」  
 まが「サーブス」に「サーブス」資料が  
 集まる「サーブス」、古書類を「サーブス」  
 り、「古書・地図類の「サーブス」  
 して、「サーブス」の「サーブス」  
 ます。「サーブス」の方々の「サーブス」  
 埋まれている「サーブス」・書類や「サーブス」  
 ・地図・図書に、「サーブス」の「サーブス」  
 る「サーブス」の「サーブス」が、数多くある「サーブス」  
 て、先口も、「東大書院関係の「サーブス」  
 東大書院関係の「サーブス」(「サーブス」)

入「サーブス」資料を得て、蔵書の  
 厚味を増して来「サーブス」  
 ました。「サーブス」の「サーブス」の「サーブス」  
 問を「サーブス」の「サーブス」に「サーブス」  
 の「サーブス」の「サーブス」の「サーブス」  
 「サーブス」の「サーブス」を「サーブス」  
 ますが、「サーブス」は、地域の「サーブス」  
 「サーブス」の「サーブス」を「サーブス」  
 「サーブス」の「サーブス」の「サーブス」  
 「サーブス」の「サーブス」の「サーブス」  
 要「サーブス」の「サーブス」



# 東京の公立図書館の現況

昭和 51 年度

## 区立図書館

〔日本の図書館 1977より〕

区別	人口 千人	館数	建物 棟	自動車 台	職 員	蔵 書	補 給	其 他	図書 費	貸出 冊数	借 録者 数	借 録率 %	人口1人当り	
													千円	千冊
足立	612	7	4	1	13	45	4.180	708	67443	11.0	72.2	1.2	12207	
荒川	203	4			4	57	51.163	532	24775	12.2	252.0	2.6	8721	
板橋	481	3			13	43	62.158	307	25514	5.3	129.2	0.6	5482	
江戸川	480	5			18	47	44.225	1211	56517	11.8	92.1	2.5	18631	
大田	671	10			71	102	129.754	1921	72.198	10.8	193.4	2.9	11104	
葛 北	430	2			8	36	19.797	368	26017	6.1	46.3	0.9	8364	
江 東	404	3		2	11	34	17.045	424	34795	8.6	42.2	1.0	9422	
品川	347	3		1	13	21	22.348	349	24928	7.2	64.4	1.0	10265	
荻 窪	347	7			28	65	43.034	678	40482	11.7	124.0	2.0	7290	
新 宿	250	4			21	41	34.370	356	21.166	8.5	137.5	1.4	5742	
杉 並	340	5			15	48	32.015	615	41.427	12.2	94.2	1.8	9762	
豊 田	527	5		1	23	57	40.014	1155	48.315	9.2	75.9	2.2	11438	
世 田	245	3			12	29	27.335	529	24.793	10.1	111.6	2.2	12902	
谷 東	762	8			34	86	47.015	922	70.409	9.2	61.7	1.2	7683	
千 代	200	3		1	11	42	27.527	559	21.852	10.9	137.6	2.8	10547	
田 央	66	1			4	18	7.280	66	5.312	8.0	110.3	1.0	3000	
中 島	96	4			12	28	16.837	279	16.916	17.6	175.4	2.9	6975	
豊 野	291	3		1	18	33	26.632	503	26.921	9.3	91.5	1.7	9863	
中 馬	343	3			15	30	29.671	515	20.704	6.0	86.5	1.5	11444	
練 馬	553	3		2	12	44	27.309	828	61.672	11.2	49.4	1.5	14786	
文 京	204	5			19	62	39.677	817	51.177	25.1	194.5	4.0	10086	
港	203	4			16	34	23.630	374	20.646	10.2	116.4	1.8	7480	
目 黒	268	5			26	37	42.709	659	37.867	14.1	159.4	2.5	10460	
区立計	8.323	100		9	417	1039	855.725	14,675	841,846	10.1	102.8	1.8	10,079	

市立図書館

※1 東大和村52.1開設

※2 日野の登録者数は昭和50年度のもの

市別	人口 千人	館数		職員 数	職員 補	その他	図書費 決算 千円	貸出冊数 千冊	登録者数 人	登録率 %	人口1人 当り 貸出冊数	職員1人 当り 貸出冊数
		建物	自動車									
秋川	40	1		3		1	6,014	131	1,423	3.6	150.4	3.3
昭島	84	3		8		8	5,000	388	13,537	16.1	59.5	4.6
稲城	44	2		8			4,000	194	8,427	19.2	90.9	4.4
青梅	89	2		1		1	2,548	142	3,436	3.6	28.6	1.6
清瀬	61	2		11		5	2,000	180	18,335	30.1	327.9	3.0
国立	63	1		12		2	15,121	436	28,433	45.1	240.0	6.9
小金井	99	1		10		7	7,322	212	14,915	15.1	74.0	2.1
国分寺	86	3		14		1	20,520	343	21,516	25.0	238.6	4.0
小平	149	1		12		2	25,840	498	36,830	24.7	173.4	3.3
狛江	68	2		4		2	4,125	124	9,478	13.9	60.7	1.8
立川	昭和53年4月開設											
多摩	77	1	1	9		3	16,340	295	15,889	20.6	212.2	3.8
田無	65	1		8		2	20,735	276	14,241	21.9	319.0	4.2
調布	172	9		29		8	17,577	587	40,522	23.6	102.2	3.4
八王子	335		2	2		7	12,146	191	4,312	1.3	36.3	0.6
恵村	102	4	1	7		5	15,016	367	21,505	21.1	147.2	3.6
東村山	114	1	2	10		8	26,000	417	32,068	28.1	228.1	3.7
東大和	60		1	1		3	7,883	14	3,480	5.8	131.4	0.2
日野	132	7	2	25		1	36,766	938	39,214	29.7	278.5	7.1
府中	180	8	1	17		11	52,150	837	69,348	38.5	290.0	4.7
福生	47	2		7		1	15,000	132	5,635	12.0	319.1	2.8
保谷	91	1		7			4,150	54	4,396	4.8	45.6	0.6
町田	265	4		6		28	43,621	1,619	57,374	21.7	164.6	6.1
三鷹	160	2		7		6	9,582	329	19,711	12.3	59.9	2.1
武蔵野	133	1		2		11	9,574	136	6,436	4.8	72.0	1.0
武蔵村山	54	4		1		5	8,300	110	7,181	13.3	153.7	2.0
市立計	2,770	63	10	221		128	405,330	8,950	497,642	18.0	146.3	3.2

※

2299

90/32

486 423459 1964 29

# まじめ

図書館という言葉から浮かぶイメージは、各人それぞれ様々でしょう。学生や受験生が本好きの人が利用するところと考える人や、魅力ある本が沢山あって気がるに人とふれあえるところ等特色々でしょう。

図書館はすべての区民に、ことごとくからお年寄りまでが読みたい本や分らない事を調べに気軽に立寄ってみたいと思つような場になつてきつゝあります。

そのことは当区の「住民意識調査報告書」をみても区の施設のうちで一番利用されていることをみてもわかります。これからも、文化的な潤いを求める区民が多くなつて、図書館が利用されるのが旺んんになってくるでしょう。

図書館は一人でも気軽に読みたい本を借り、自宅や、通勤、通学の車内でも手軽に利用できる大きな利点があるからです。このことは貸出冊数の伸びをみても推測できます。

週休二日制で自分の時間も増え

題を考へなければならぬことが多くなつてくるでしょう。

生涯教育の必要性が叫ばれている今日、図書館の需要は益々大きくなつてくると考えています。

そのために区民の必要とする資料(本)や情報を早く、確実に提供したり、色々な問題を解決するために本を仲立ちして職員が援助する仕事(レファレンス)等の機能を充分に果せる体制づくりが必要で

このことは、区民である障害者も忘れることはできません。この方々に対するサービスは糸ぐちについたばかりです。地道に失敗をおそれず、障害者の意見をきき、地域の人々の協力を仰いで行われなくてはなりません。

図書館は一人でも利用されるばかりでなく、相互学習の場、集会の場として読書会等の協同研究や紙芝居、人形づくりや、スポーツ、レクリエーションの相談や計画づくりグループで利用されることが多くなつています。

これからは連帯して人間が人間らしく豊かにくらすために生活の場である地域では必要である

か、またそのためには何をなすべきか等々が話しあっていく場としてコミュニティが必要といわれています。地域の人々が自主性と責任をもつて話しあい、学習をするための情報や資料や、共同研究の場を提供したり、資料を使って学習を援助する機能が大きく区民に期待されるでしょう。

とくに自治の主役である区民とともに区政をすすめていくための住民参加の必要性がいわれておりますが、そのためには区民に区政に関心をもつてもらい積極的に意見をきくためには区政や都政や地域に関する情報、資料を収集・整理・保存して提供することが大変重要な役割を果します。その区に関することは国立や都立や他の区の図書館からもとめることができなからず、このことは特別区政調査会の「行財政制度の改革」についての答申をみてもわかります。

十三頁にもなっているように区で発行されるすべての資料や、区内の団体や個人で発行される機関誌が積極的に集められるよう協力を望みます。

これからの図書館は一人一人の生涯教育の場であると同時に「本のある広場」としてコミュニティの中で大きな役割が期待されます。このことは、自治省事務次官通達「コミュニティ(近隣社会)に関する対策要綱」(昭四十七・五・一)にもコミュニティに必要施設として例示されていることから分かります。

以上述べたようにこれからも図書館が区民のくらしに果す役割は益々重要になってくるものと考えています。

四、六頁の登録者分布図をみても空白地域があり、区民がどこに住んでも公平な図書館サービスが利用できる体制づくりや、区民の要望に一館でこたえられなくとも他の図書館相互の協力によってこたえる体制づくり等なされなくてはなりません。

図書館は区民に利用され、区民に支持されてこそ発展します。それをささえるものは魅力ある豊富な本と、それを区民に結びつける人を愛する職員の熱意が今後益々必要です。



### 島図書館

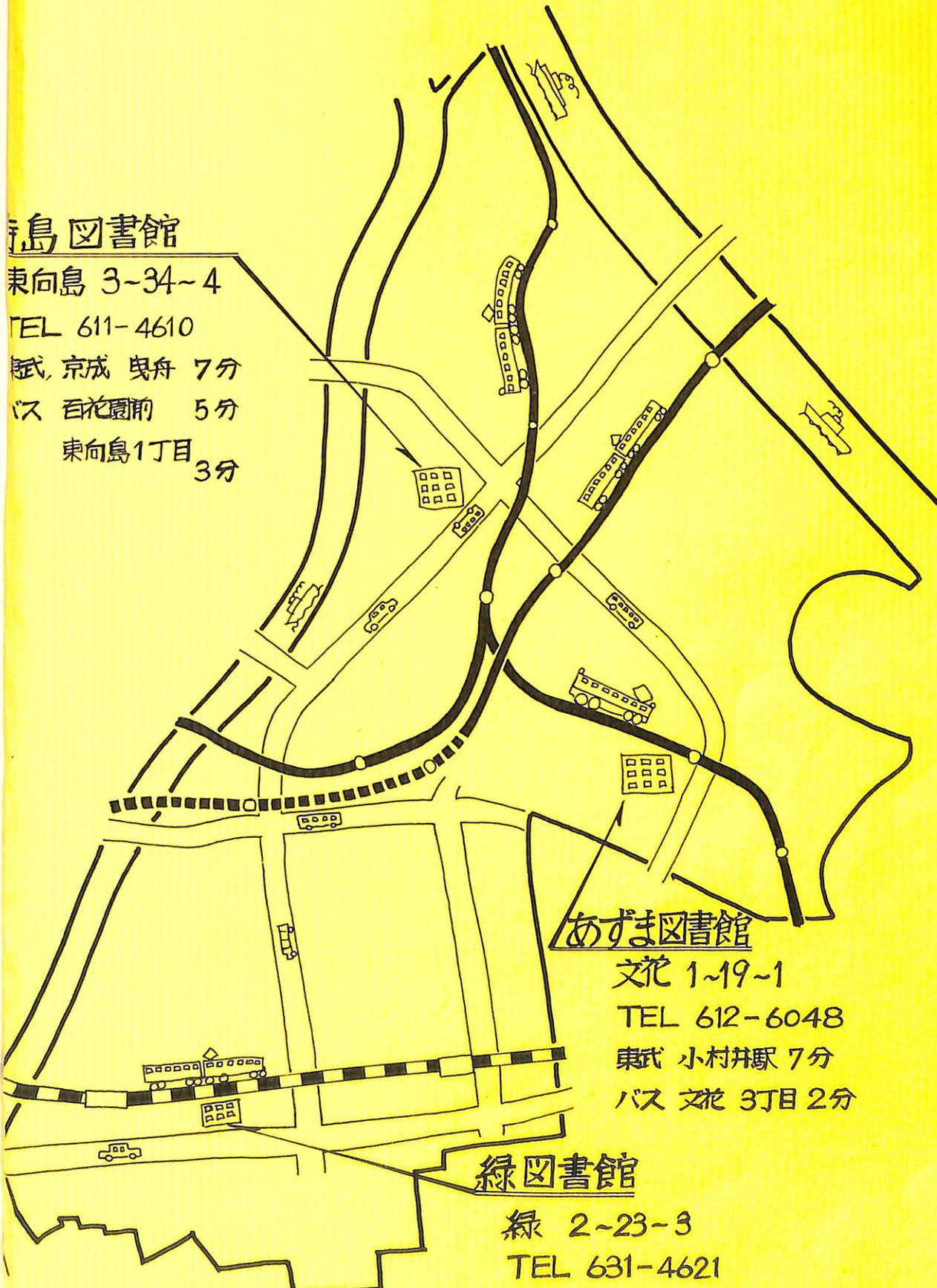
東向島 3-34-4

TEL 611-4610

東武, 京成 曳舟 7分

バス 百花園前 5分

東向島1丁目 3分



### あずま図書館

文花 1-19-1

TEL 612-6048

東武 小村井駅 7分

バス 文花 3丁目 2分

### 緑図書館

緑 2-23-3

TEL 631-4621

両国駅 10分

バス 緑2丁目 2分 石原2丁目 7分